Issue 3/2015
2015 No.22

出エジプト作戦

エベネゼル国際緊急基金の働き

なぜ私達はアリヤー(帰還)のために祈るのか？

わたしの子らを遠くから来させ、
わたしの娘らを地の果てから来させよ。
イザヤ書43章6節

ユダヤ人がイスラエルに帰還するのを助けるクリスチャンの働き

祈りの家で楽しませる

国際

フィリップ・ホルムバーグ
PHILIP HOLMBERG
国際理事

今年の５月に私達は「グローバルな祈りの呼びかけ」（１００日間にわたる祈りの期間）を終えました。これは、ナチス体制とユダヤ人絶滅の策略に対する勝利を祝う、アウシュビッツの解放を記念してのイベントでした。このグローバルな祈りの呼びかけ（Global Prayer Call）は、多くの国々のとりなし手や教会が参加するすばらしい時となりました。

GPCの中で、三つの分野についてのとりなしと祈りの必要性が強調されました。第一の分野は、メシヤのからだのためのとりなしです。これは、私達が王であり祭司となる召しに答えるためのものです。二つ目は、私達の国々にいる「すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために」（Ⅰテモテ2：1,2）祈ることです。三番目は、イスラエルとユダヤ人のために祈ることです。

エベネゼル出エジプト作戦は、とりなしの働きです。ですから、私達はメシヤのからだが、主がユダヤ人に対して持っておられる永遠の愛と、彼らとイスラエルに対する神のご計画を理解するために啓示が与えられるように祈ることが必要です。神は、ユダヤ人と教会を置き換えたのではありません。そうではなく、むしろ「私は言います。キリストは、神の真理を現わすために、割礼のある者のしもべとなられました。それは先祖たちに与えられた約束を保証するためであり、」（ローマ書１５：８）なのです。

GPCは、自分の国でイスラエルに関してとりなすための新たなる献身を意味します。私は妻とともに３月に小さな祈りのチームでイスラエルへ行き、スウェーデン政府の決断と態度について、主の前で赦しを求め、イスラエル政府の代表からも赦しを求めました。

私達は、エベネゼル出エジプト作戦においてイスラエル、ユダヤ人、そしてアリヤーのために祈ることができることは、大きな特権です。イスラエルとエルサレムと神殿の丘の完全な回復の為に、また、主が栄光を持って再臨されることのために祈っていきたいと思います。

主はユダヤ人とイスラエルを、御自身の権威の元において、神に仕えるために造られました。ですから、彼らは神の民であり、その地は神の地です。神はイスラエルとその地の民の神です。不従順に対する最終的な裁きと呪いは、民をその地から追放することでした。（申命記28：63－64）

主はイスラエルの民の神であり、ご自分の契約と約束とその預言的なみことばに忠実なお方です。主は、一時的に他の国々がそこにいることをゆるしてはいますが、イスラエルの地を所有しておられる方です。しかし、私達は人々がその地から切り離されることが本当にどういう意味なのかをなかなか理解することができません。パウロはこう書いています。

「では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。 もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。」（ローマ書11：11－12）

アリヤーは自然発生的なものではなく、今日主が行われている重要事項の一つです。

アリヤーというのは、ただ偶然に起こるとか、「専門家」のための副次的な問題などではないのです。アリヤーは、主が今の時代にされていることの中心的な部分を占めているのです。神はシオンであわれみを示し、御自身の民を故郷の地へと帰還させておられます。そしてその結果とは、次のみことばにあるとおりです。

「もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることでなくて何でしょう。」（ローマ書11：15）

世界中の多くの国々の信者達がともに集まり、アリヤーのために祈るのを見る時、それは預言的なしるしなのです。主御自身が私達外国人を主に連なり主に仕え、主の名を愛するものとしてくださり、主が私達を主の聖なる山に連れて行き、主の祈りの家で私達を楽しませてくださるのです。（イザヤ56：6－7）

私は、主が今私達の働きを、共同のとりなしの新しい次元へと召してくださっていると信じます。神は私達をグスタフ・シェラーの「出エジプト作戦」の中に書かれてあるように、世界中からの最後のアリヤーが完成するために聖霊の「力強い流れ」のために自分を犠牲にして喜んでとりなしていくように私達を召しておられると思います。

そのためには、私達は日毎に自分の意思に死ぬことが必要です。そうすれば、聖霊が私達のうちで御自身の命を自由に表してくださるのです。

また同時に、主は私達に、主の聖なる新鮮で尊い油を注いでくださっています。主の喜びの油が私達を祈りの家で楽しませてくださるのです。なぜなら、「――イスラエルの散らされた者たちを集める神である主の御告げ。――わたしは、すでに集められた者たちに、さらに集めて加えよう。」と主が言われるからです。（イザヤ56：8）

キーワード

アリヤー Aliyah ：
アリヤーとはユダヤ人がイスラエルへ移住することを表す言葉です。ヘブライ語では、アリヤーは、「上る」という定義の言葉で、エルサレムへ上っていくことを表します。

オリーム Olim ：
オリームは、イスラエルへ移住するユダヤ人、つまりアリヤーをする人々です。男性の単数形は、olehで、女性の単数形は olahです。オリームとなる候補者にエベネゼルのチームはコンタクトを取り、彼らがアリヤーをすることを促し

支援が信頼を築く

ロシア

アレクサンダー
ALEXANDER
ボルゴグラード代表

衣服や食料品などの人道的援助の贈物は、クリスチャンとの接触に警戒心を持っているユダヤ人の心をもやわらかくしています。

ボルゴグラードにある会堂はエベネゼルの働きに対して、長い間扉を閉ざしてきました。しかし今年の初めに、子供が多いユダヤ人の家族、また障碍児を持つユダヤ人の家族に対して、実際的な物資の支援を申し出た時に、彼らの反応が以前と違うことを知りました。エベネゼルチームは、とても感謝し、新しく開かれた機会が与えられたことを喜びました。

この地域のユダヤ人の家族と会った後から、アリヤーについての情報を求める電話が多くかかってくるようになりました。中でも、ナーレ(Na'ale)のような学習プログラムが、親達にとって一番関心があるようでした。子供達がまずこのようなプログラムでイスラエルでの生活を体験すると、彼らからのよい報告を聞いて、その結果親達も子供達に続いて帰還することが多いのです。

ロシア

家族との再会

オレグ OLEG
ノボシビルスク
リーダー

私達が、ノボシビルスクからイスラエル帰還を支援する家族には、それぞれストーリーがあります。

帰還する家族の中には、多くの困難を克服しなければならない家族も多いです。クラスノヤルスク出身のイリーナの家族も例外ではありませんでした。しばらく考えた後で、イルマは彼女の三人の小さな娘を連れてアリヤーすることを決心しました。娘のうちの二人は、生後１８ヶ月の双子です。

現在イリーナとすべての子供達はイスラエルにいます。

彼女達は、何年か前にアリヤーしたイリーナの母親と二人の姉のもとに合流することになっていました。上の姉は、警察で働いており、下の姉はナーレプログラムで勉強をしています。イスラエルには、他にも彼女の親戚がいて、皆イスラエルになじんで生活しており、帰還を喜んでいます。

しかし、三人の小さな娘を伴ってのアリヤーは決してたやすいことではありませんでした。そこで、ユダヤ人協会は、彼女達の帰還の準備のための支援をエベネゼルに要請しました。その準備には、飛行機に乗るまでの移動や宿泊が含まれていました。エベネゼルのチームは全てを祈りを通して整えることができ、この家族はビザを取得し、3月に無事アリヤーすることができました。全ての栄光が神様にありますように!

遂に永住の地へ

ウクライナ

マリーナはドネツク中心部に家族と住んでいました。彼女は学校で生物を教えていました。そして夫のセルゲイはスーパーで働いていました。戦争が始まって町中に爆発音が響いた時には誰もがおびえていました。

多くの人がそこを去ることを考えていました。そしてマリーナとセルゲイと息子のアントンはドネプロペトロフスクに引越して、彼らの友人のところに滞在していました。

その2ヵ月後に、ドネツクにあるマリーナの働いていた学校の校長先生から、教師として働いてほしいという要請があり、彼女はそれを受け入れました。それで家族もまたドネツクへ戻りました。しかし、戦闘が毎日続く中、大人も子供も耐えられない状況になったのです。マリーナと夫は、今こそ永住の地へと移動する時が来たことを悟り、エベネゼルへアリヤーするための支援を要請したのです。

彼らは、ウクライナのエベネゼルチームの全ての支援に心から感謝を表していました。

タチアナ
TATIANA
ウクライナチーム

Top: Ukraine following clashes © PA Photos in collaboration with Sword Magazine.

マリーナとセルゲイ
永住の地に向かって

タイムリーな支援

モルドバ

オレグと妻ナデフダと5歳の息子デイビッドが、アリヤー便の飛行機に乗る直前にエベネゼルから受け取った経済的支援は、とてもタイムリーなものでした。

オレグの雇用主は、彼がイスラエルへ移住する計画を持っていることを知ると、彼を解雇しました。このことにより彼らは深刻な苦境に陥りました。イスラエルへ向かって発つまでの数ヶ月だけ、オレグを雇ってくれる人は誰もいませんでした。それで、この家族は経済的なサポートが皆無の状況に陥りました。しかし、私達は彼らの当面の生活費と同様に必要な書類を整えるための経費などを支援することができました。

オレグとナデハダは、全ての支援、励まし、経済的な援助を感謝していました。アリヤー便の飛行機に乗るために、私達は彼らを空港へ送りました。彼らが故郷イスラエルにおいて、主からの全ての備えを受けることができるようにお祈りします。

どうか、モルドバにいるさらに多くのユダヤ人がアリヤーすることができるように、また主が私達のチームにタイムリーにユダヤ人家族に出会う機会を導いてくださるように、お祈りください。

パベル PAVEL
モルドバリーダー

エベネゼルは、オレグ、ナデフダ、小さなデイビッドを支援することができました。

全ては祈りから

祈り

エリサベス・ウェブ
国際エンゲージ
祈りのコーディネーター
PRAYER COORDINATOR

「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。」
コロサイ４：２

祈りの新しい次元

アリヤーする全ての家族、イスラエルでの生活に適応することができた家族、また多くの教会やユダヤ人社会に扉が開かれていること全ては、神の忠実さを示しています。祈りが聞かれていることゆえに、主に感謝と賛美をささげます！また、ユダヤ人達の帰還は、私達が今生きている時代を国々に示す力強いしるしであることを知ることができます。私達は喜んで主の招きを受け、さらに主のご計画と目的が成就されるために、主のアリヤーの働きに参加していきましょう。

祈りの課題

- 主が私達をさらに深いとりなしへと導いてくださるように、またエベネゼルの祈りのネットワークがさらに強められ成長していくようにお祈りください。グローバルな祈りの呼びかけ（Global Prayer Call）において、祈りへのさらなる再献身がなされたことを主に感謝しましょう。
- さらに多くの若者達が、主からの召しを受けて、アリヤーのためにとりなし祈ることができるように、またエンゲージツアーなどの旅行やイベントを通して植えられた種が、主によって養われ成長するようにお祈りください。
- 主が今日与えておられる祈りのための戦略を私達が明確に受け取ることができるようにお祈りください。ヨーロッパ大会で主が示してくださった全てを主に感謝します。

地に植えられて

アリヤーの実際的な働きには、主に二つの側面があります。ひとつは、ユダヤ人が帰還するための働き、もうひとつはイスラエルでの生活の支援です。

祈りの課題

- 旧ソ連やラテンアメリカ、アメリカ合衆国、フランス、ヨーロッパ諸国などで奉仕しているエベネゼルチームに主の守りと祝福があるようにお祈りください。彼らの旅、アリヤーについて分かち合い、オリムを支援する働きが祝福されるようにお祈りください。
- 今後増加する多くのアリヤーに対して、イスラエル政府が対応することができるようにお祈りください。方針や法律も、帰還民の生活や適応を助けるものとなりますように。
- エベネゼルでは、フランス、イタリア、ドイツ、旧ソ連より新しいオリムたちが団体で帰還するのを支援しました。さらに多くのオリムたちが彼らの跡に続くことができるようにお祈りください。
- チャレンジに直面しているオリムたちが、主からふれられますようにお祈りください。神様のご計画と目的によって彼らが支えられますように。また、エルサレムのエベネゼルチームが強められ、彼らが愛と支援を与え続けるることができますようにお祈りください。

まず帰還

イタリア

私達は、２０１５年はイタリアの離散の地からの民の帰還の働きの始まりだと感じていました。しかし、主がエベネゼルイタリアに導いてくださった人々にどんなインパクトが与えられているかは、想像もできませんでした。

「僕は大きくなったら、あなたたちの所に行って一緒に働きたいんだ。」とローマのユダヤ人家族のアロンという8歳の子供は何度も言っていました。今年の７月１５日に、私達はイタリアから初めて７人のオリムがイスラエルへ帰還することを支援することができました。

また、ローマで私達は、貧しいユダヤ人の家族（4人家族）を訪れ、慰め、支援することができました。彼らのもとに食料品を届け、スーツケースを買い、荷物を空港へ運びました。そして、彼らは７月30日にアリヤー便に乗ってイスラエルへ帰還したのです。

イタリア
ジャン・ルカ　モロッティ
イタリア代表

ウェールズからのアリヤー

英国

ジョナサンとパーペチュアは、今年６月にアリヤーする人生の目標を果たしました。彼らは生まれ育ったウェールズを去り、イスラエルの新しい故郷へ移住したのです。

彼らは、１４年前に結婚する以前からアリヤーすることについて計画していました。昨年パーペチュアは脳腫瘍があると診断され、治療を受けてその治療は成功しました。しかしながら、彼らは自分達の人生が短いことを強く感じ、彼らはこれからも夢を見続けるだけなのか、それとも今移住するかどちらかを選択しなくてはいけないと知ったのです。

それで、彼らは私達にコンタクトを取り、支援を要請しました。そして、パーペチュアの医療器具をイスラエルへ運ぶための費用がかかることや、治療後なので彼女の体の動きには制限があることなど、彼らの問題を説明してくれました。そこで、私達は喜んで彼らを支援したのです。

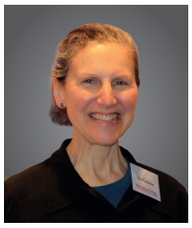
イギリス
アリソン・イーストウッド
ALISON EASTWOOD
イギリス代表

ジョナサンとパーペチュアはこのように語っていました。「エベネゼルの代表の方々に出会うことができて、私達は驚くべき祝福を受けました。彼らがした驚くべき働き支援に、感謝を言葉では表しつくすことができません。」イスラエルに到着した後、彼らは私達にこう言いました。
「私達は無事にイスラエルに到着したことをお伝えします。ここでは全てが順調です。私達は遂に故郷へ帰還することができて、本当にうれしいです。」

（左から）
パーペチュア、
シーラ・マザー（ウェールズ祈りのコーディネーター）
ジョナサン、
ジェームズ・トランター（エベネゼル　エンゲージ・ユース　ウェールズ代表）

シオンでの慰め

イスラエル



アイリス・ゴールドマン
IRIS GOLDMAN
エルサレム支部

「シオンの悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるためである。彼らは、義の樫の木、栄光を現わす主の植木と呼ばれよう。」
イザヤ書６１：３

アリヤーすることは、離散の地にいる全てのユダヤ人に対しての神のみこころです。しかしこれは大きなチャレンジです。
それでも、偉大な神は、離散の地から彼らを取り出して、まことの故郷へと植えてくださることができるお方なのです。

このエルサレム支部においては、大きなチャレンジに直面しているオリムの方に支援することがしばしばあります。というのも、困難の中にある方に支援と慰めを提供することが、私達の目的そのものだからです。

昨年の夏に私達はマリーナに出会いました。

マリーナ：支援を通して喜びと励ましを受け取っています

彼女はロシアから帰還していました。そして息子と家族と合流したのです。
マリーナの夫は来ませんでした。彼女は、私たちが初めて会った時にはあまりうれしそうではありませんでした。しかし、私達が食料品の物資を提供した時には感謝していました。それで、エベネゼルイスラエルの祈りのグループで、マリーナのために祈り始めました。その後、彼女の表情に少しの微笑みが見られるようになってきました。

私達がイギリスから小さな子供のための毛糸の衣服の寄付を受け取った時、私達はマリーナを呼んで、自分の孫のために好きなものを選ぶように言いました。彼女はうれしそうに孫のための服を選び、喜んで持って帰りました。その時、彼女の表情には新しい力が与えられているのを見ることができました。

イスラエルの神は、私達に慰めを与えることを約束されています。「灰の代わりに頭の飾りを」また「悲しみの代わりに喜びの油を」と言われているのです。神は、私達をここに植えてくださっているのは、主の栄光のためなのです。

マリーナと息子と家族が故郷の地に植えられたことを主に感謝します！私達は、マリーナのご主人も帰還できるようにお祈りしています。そして、家族全員がシオンにおいて神からの慰めを受けることができるようにお祈りしています。
エベネゼル支援者の皆さん、エルサレムにおいて慰めのわざが継続できるように、多くの支援を送ってくださり感謝します！

Operation Exodus
A ministry of Ebenezer Emergency Fund International

Ebenezer Emergency Fund
International & UK Office
Ebenezer House, 5a Poole Rd.
Bournemouth, BH2 5QJ,
UKPhone: +44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org

Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086

Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

エベネゼル緊急基金日本支部
〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号
Tel&Fax: 011-813-3558（岡田）
Email ：e@eefj.org
http://ebenezerjapan.org/
郵便振替（名称）エベネゼル緊急基金
（番号）02710-0-55842

Operation Exodus（出エジプト作戦）はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく１９９１年に３人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた２５カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。